



冬は分娩前後の母牛の急な栄養度低下に注意!!

冬は分娩後の雌牛が痩せやすいと感じたことはありませんか？ 人もですが、牛も寒い時期は体温維持のためにエネルギー消費量が増えてしまいます。分娩前後の栄養度の極端な変化は、次回の繁殖成績や子牛発育の低迷に繋がる恐れがあります。とはいえ、増給は牛によつては過肥となり却って悪影響となることも考えられるため、冬は特に“牛ごと”の栄養状態を意識して飼養管理することが大切です。

★ 母牛がエネルギー不足か確認する方法は？

分娩前は胎児の発育、分娩後は泌乳と子宮の回復があるため、必然的に必要なエネルギー量は増加します。そのため、一般的に分娩前後は増飼いが推奨されていますが、体重や泌乳量によっても必要なエネルギー量は変わります。季節に関わらず牛に合わせた飼料給与ができるように以下をよく観察することが大切です。

① 母牛の栄養度・行動

母牛の栄養度は4～6が標準範囲と言われますが、

- ・分娩後に4のもの
- ・分娩後低下傾向で推移しているもの

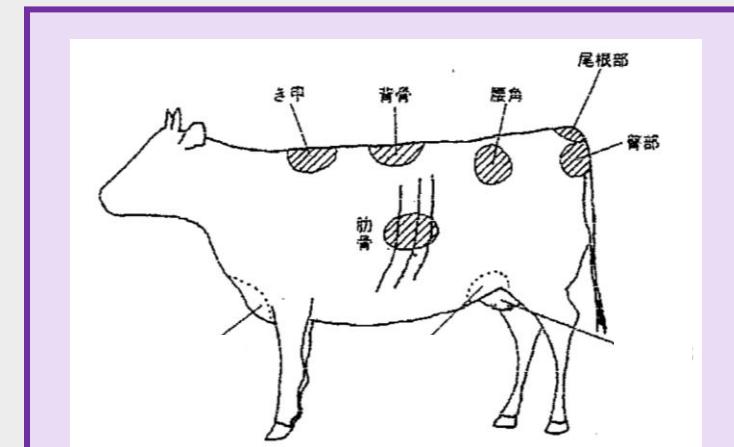
は分娩後初回授精の受胎率が下がるという報告もあります。

現状の栄養度だけでなく、変化に注目して観察しましょう。

また、朝の飼い付け前に牛が激しく鳴く場合は、粗飼料が足りていないことが予想されます。配合飼料の増給の前に粗飼料の給与量を増やすことでエネルギー不足を改善できるかもしれません（朝、飼槽にサラッと残っている程度が○）。

② 子牛の発育・行動

母牛の泌乳量は子牛を観察することで推定できる場合があります。普段よりも子牛が発育良好な時、他の雌の産子も乳を飲んでいる時は高泌乳量のサインです。エネルギー不足を考慮し、過肥に気を付けて飼料を調節しましょう。



栄養度は上図6か所の平均値(四捨五入)。

触れて脂肪が全く感じられなければ4以下ですが、登録審査で伝えられた栄養度と牛の状態を見比べてみると分かりやすいと思います。 (画像引用：(公社)全国和牛登録協会資料)

★ 1~2月受胎牛は1年1産の優良牛が少ない傾向

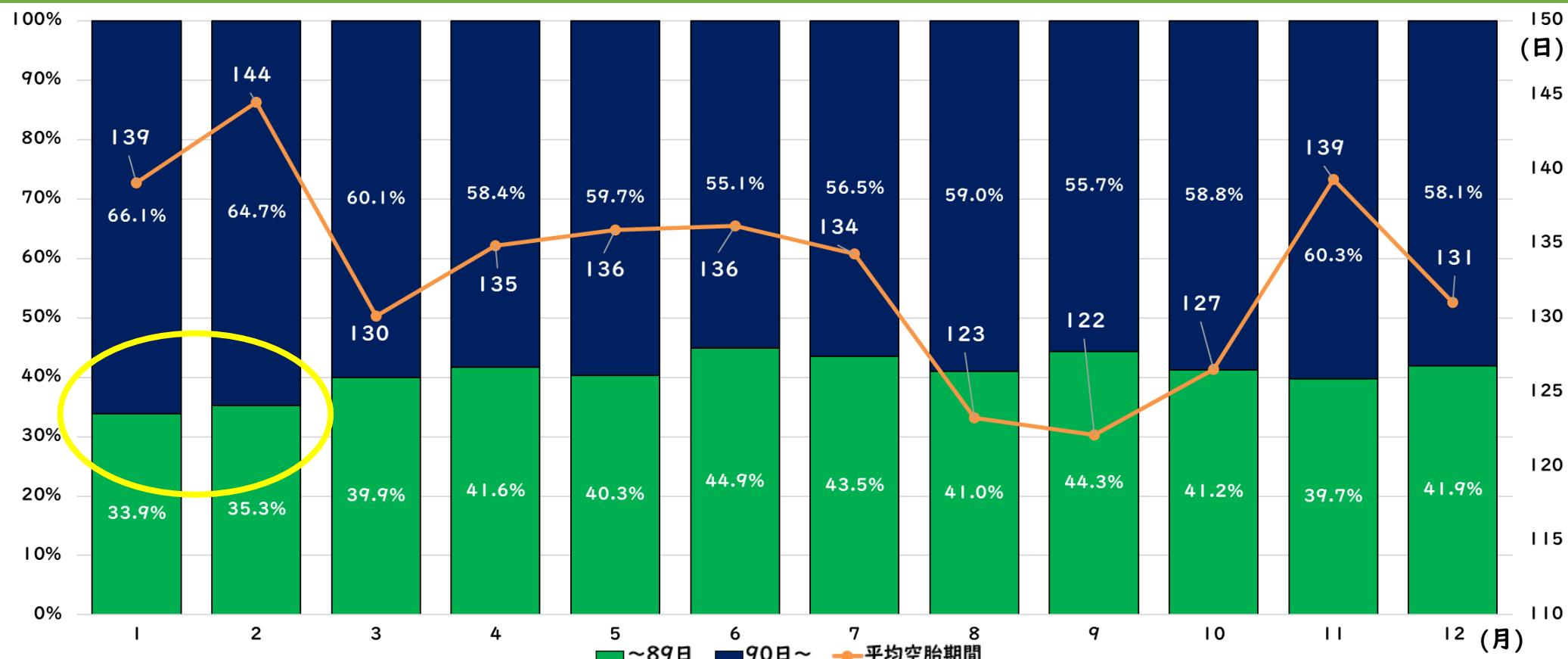


図 受胎月ごとの空胎日数(直近分娩日から)の頭数割合及び平均空胎日数【久慈地域、RI～5の集計】※
表 各月の受胎頭数【久慈地域、RI～5の集計】※ (頭)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
404	380	411	473	476	437	444	354	458	439	428	482

1~2月受胎の場合、空胎日数が90日未満(およそ1年1産)の牛が少ない傾向です(10~1月分娩の場合、次の受胎までの空胎日数が長い牛が多かった)【上図】。受胎頭数そのものも少なく、後ろの月に流れていることも予想されます【上表】。

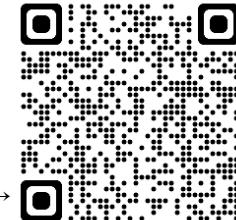
牛によっては、寒い時期の分娩前後のエネルギー不足が、その後の繁殖成績に悪影響を及ぼしている可能性があります。

※死産等除き、AI産子及び前回分娩が2産目以降のものの集計

繁殖サイクルを回してガッチャリ ~見えない儲けをわしづかみ!~

第6回は、岩手県立農業大学校における繁殖管理の事例の紹介でした。

今回は、繁殖育成牛の選定についてです。選定において重視する点は、期待される産肉能力、母の繁殖成績や産子の増体、穏やかさ等、さまざま挙げられます。今回も体型（繁殖性・月齢に応じた発育の面から）についてご紹介します。



第7回 繁殖育成期の管理（選定）

牛の各部位は、それぞれ発達のペースが異なるとされています。子牛らしい体型、成牛らしい体型は異なるため、繁殖雌牛として適した体型（分娩間隔と関連する部位が良好、発育良好）の牛を選定するためには、育成期の体型から、その後の発育を予想する必要があります。

1 肩付き

雌牛の前肢は体重の約55%を支えていますが、構造上、前肢は肩甲骨と体躯の間の腱と筋肉のみで支えられており、肩の付着が緩いものは長持ちしないため連産性に欠けます。また、肩付きに優れるものは分娩間隔にも優れると言われています。

一般に、肩は成長するに従って悪くなるため、現状が良好なものを選定しましょう。

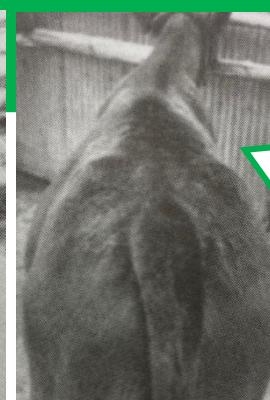
2 高さ

子牛：体高<十字部高

成牛：体高>十字部高

です。
体高よりも十字部高が高い牛は、
まだまだ発育の余地があります。

◎肩付きが
良い牛
前～中軸に
かけて
なだらかに
移行



×肩付きが
悪い牛
肩後が落ち
くぼみ、
移行が
ギクシャク

肩付きの他、被毛の密度・質、体の品位、骨味、体上線、皮膚の厚さ、乳房の質も分娩間隔と好ましい関係にあるとされています。特に体上線は肩付き同様に徐々に悪化するため、注意して観察しましょう💡